

宇治交配 **松の舞**

味のよい豊産ジャンボトウガラシ！

特 性

- ① 草姿は半開張性で葉は緑色の中葉、節間は中位、草勢はやや強く分枝の発生も多く成り休みが少なく上果率の高い豊産早生種です。
- ② 果長 10 ~ 12cm、果重約 20 ~ 25 g の長三角形のニュータイプとうがらしで、果肉厚くやわらかで、辛味の発生も少ない。果色は光沢のある鮮緑色で美しく、とうがらし特有の風味があり、焼とうがらしの他、煮炊、油炒めにして美味です。



栽培のポイント！

は種

は種は有機質に富み、病菌の少ない用土に条播とします。高温多湿で発芽しやすいので、発芽始めまでは地温を 25 ~ 30℃とし、床土乾燥させないよう適湿を保ち発芽させます。

育苗

発芽後は地温を昼間 20 ~ 25℃夜間は 18 ~ 20℃とし、床土も乾かすようにして立枯病の防止に努めます。は種後 25 ~ 30 日（本葉 2 枚時）位に保水性のある用土を使い 12 cm のポリポットに鉢上げします。活着後は、徐々に地温を下げ、定植までに 14℃位にします。株間が混みあってくる頃に鉢の移動（ズラシ）を行います。定植前の苗は鉢の乾燥や肥料切れになりやすく、老化苗にならないためにも液肥の灌水を行います。定植前には必ず苗床での薬剤散布を行います。アブラムシ・ミナミキロアザミウマの本圃での初期の発生を少なくすることができます。

畦立および元肥

とうがらしは多量の水分会と酸素を好みます。完熟堆肥の多用と深耕してできるだけ高畦での栽培をして下さい。元肥の施肥量は前作・土質・保水性を考慮し、10a 当たり N 成分量で 15 ~ 25kg とします。畦肩に 2 本の灌水パイプを置くことにより十分な灌水を行うようにして下さい。

定植

初期から安定して着果する品種ですが若苗定植は避け開花始めに定植します。畦幅 150 ~ 180cm、株間 45 ~ 50cm の 1 条植えとします。

追肥

第一回目の追肥は、2 番果の着果確認と草勢をみて行います。液肥または油カス+化成肥料を穴肥とします。肥料切れおよび灌水不足は草勢が弱まり果実が短くなる場合があります。また 1 回の追肥で N 成分の多量の施肥は Ca 吸収を少なくし、果実の Ca 欠乏の発生を見ることもありますので、少量に分けてこまめな追肥と十分な灌水による管理が大切です。

整枝および誘引

第 3 分節位の所より混み合った枝・内枝などを摘芯し、4 ~ 6 本の主枝をつくる。側枝は 2 ~ 4 果の着果で摘芯し、透過をよくすることにより、色上がりをよくする。横枝の状態になると一斉着果となり、主枝の成長が止まり、短形となり、成り休みの状態になります。このため主枝・側枝いつも開花している状態を保つようやや強めの誘引を奨めます。

収穫

開花後 15 ~ 22 日目で収穫適期となります。隔日収穫とし草勢を弱めないようにします。

病害虫対策

初期からアブラムシの対策が必要です。ハウス内の栽培では灰色かび病・菌核病の発生を見ますので、ハウス内の湿度管理に十分注意して下さい。

※高温や乾燥などの条件下では、辛味果が発生する場合があります。

下記標準栽培表を参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。

	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ハウス促成	●	●	×	—	—	—	—	—	—	—	—
トンネル早熟			●	×	—	—	—	—	—	—	—
露地			●	×	—	—	—	—	—	—	—

● 播種 育苗 × 定植 — 生育 ◡ トンネル □ 収穫